

競輪補助事業完了のお知らせ

この度、平成25年度に競輪の補助金を受けて、下記の事業を完了いたしました。

1. 事業名 平成25年度障害を持つ人が幸せに暮らせる社会を作る活動補助事業
2. 事業の内容
 - (1)啓発誌「こころの元気+」の発行
 - (2)ピア・ネットワーキング・プロモーション研修の開催
3. 事業費総額 14,598,672 円
4. 補助金額 8,213,145 円
5. 実施場所
 - (1)当法人事務局（千葉県市川市平田3-5-1 トノックスビル2F）
 - (2)三重、岡山、鹿児島、秋田
6. 事業完了日 平成26年3月28日

特定非営利活動法人地域精神保健福祉機構

代表理事 大嶋 巖

【平成25年度競輪補助事業報告】

補助事業番号 25-2-019

補助事業名 平成25年度 障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業

補助事業者名 特定非営利活動法人 地域精神保健福祉機構

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

精神障害に対する正しい知識の普及活動を行い、もって社会福祉の増進に寄与する。

(2) 実施内容

①啓発冊子の作成・配布

- 1) 対象：精神障害者とその家族、支援関係者及び一般の方
- 2) 内容：精神疾患に関する正しい知識、病気の方やご家族の体験談、福祉制度の解説の他、精神疾患や薬、社会資源等の最新情報などを掲載。
- 3) 様式：B5版64頁
- 4) 発行部数：毎月10,000部×12回

○啓発冊子「こころの元気+」

- 5月号 特集「からだにも元気をプラス！」
- 6月号 特集「自分の考え方のクセを知ろう」
- 7月号 特集「働くことが不安です」
- 8月号 特集「私は管理されたくない」
- 9月号 特集「家族も元気に！」
- 10月号 特集「みんな毎日ぐったりだ」
- 11月号 特集「発達障害のことを知りたい」
- 12月号 特集「メンタルヘルス映画の世界」
- 1月号 特集「精神科医療の未来を知りたい」
- 2月号 特集「恋をしたい ときめきたい」
- 3月号 特集「薬を正しく処方してほしい」
- 4月号 特集「ああ！ コンプレックス！」

②ピア・ネットワーキング・プロモーション研修会

- 1)対象：精神疾患の当事者
- 2)内容：孤立しがちな当事者が他の当事者と情報や経験を共有する機会を提供し、全国で広まりつつあるピア活動のネットワークを作る。
- 3)時期：年間4回（2、3月に開催）
- 4)場所：日本全国4カ所にて開催（三重、岡山、鹿児島、秋田で開催）

○第9回ピア・ネットワーキング・プロモーション研修in三重

日時：平成26年2月17日

会場：三重県教育文化会館 第5会議室（三重県津市桜橋2-142）

参加者：40名



○第10回ピア・ネットワーキング・プロモーション研修in岡山

日 時 : 平成26年2月28日

会 場 : 倉敷芸文館 202会議室 (岡山県倉敷市中央1-18-1)

参加者 : 43名



○第11回ピア・ネットワーキング・プロモーション研修in鹿児島

日 時 : 平成26年3月23日

会 場 : 鹿児島市精神保健福祉交流センター「はーと・ぱーく」多目的室
(鹿児島県鹿児島市鴨池2-22-18)

参加者 : 24名



○第12回ピア・ネットワーキング・プロモーション研修in秋田

日 時 : 平成26年3月26日

会 場 : 横手市交流センター「Y2プラザ」 研修室3
(秋田県横手市駅前町1-21)

参加者 : 31名



2 予想される事業実施効果

①啓発冊子の作成・配布

近年、さまざまなメディアで精神疾患関連のニュースが取り上げられることが多くなり、一般社会が精神障害に対する関心が高まってきたが、同時に科学的な根拠に乏しい情報も見受けられ、情報の信憑性や信頼性を判断する力が必要となってきた。

啓発冊子「こころの元気+」も創刊して8年目に入り、精神疾患の当事者本人の姿や体験談をはじめ、科学的な根拠に基づく有益な情報を提供することを心がけてきた。今後も、さらに正しい知識の普及啓発と精神障害者への認識不足や誤解を払拭することを目指し、精神障害をもつ人たちが主体的に生きて行くことができる社会のしくみづくりという社会的課題の達成を目指す所存である。

②ピア・ネットワーキング・プロモーション研修会

この研修会は、各地域でばらばらに活動している精神障害者のピアサポートグループを、研修の場でつなぎあわせ、場に参加している近隣の当事者に活動を紹介する第1部と、当事者中心で参加者全員が、その場で小グループを運営し、ピアサポートグループの進行・運営方法を体験する第2部である。社会から隔絶されたピアサポートグループ、当事者個人が別の当事者と触れ合い、助けあうことを体験する第一歩となる研修会である。

現実に相談支援事業所などの社会資源が肌に合わない当事者がいる。少し元気であるがゆえに、地域につながりがなくなり、カウントされない社会的ひきこもりとなっている。これからの精神保健福祉医療の流れとしては、こうしたカウントされない社会的ひきこもりである当事者がお互いにサポートしあい、体験のわかちあい・ピアサポートグループによる社会参加、グループ内での役割を責任もって果たすこと、互いにロールモデルとなりリカバリーのきっかけになるようなグループ運営をしていくことである。

この研修でピアサポートグループを進行するノウハウや、当事者同士でグループを作ることの困難などを包括的に体験することで、やる気になれば参加者全員が次の日からピアサポートグループを発足させることができる。

今後さらに更に事業を継続することで、カウントされない社会的ひきこもりの当事者、社会から認知されていない各ピアサポートグループが研修の場で出会い、ネットワーク化、視覚化されることで、地域社会とのつながりを持つようになる。当事者が社会の中で安心

して主体的に暮らしていく地域ができあがり、精神障害をもつ人たちが主体的に生きて行くことができる社会のしくみづくり社会的課題の達成に近づくとと思われる

3 本事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

○啓発冊子「こころの元気+」 毎月10,000部×12ヶ月発行



啓発誌「こころの元気+」5月号



啓発誌「こころの元気+」6月号



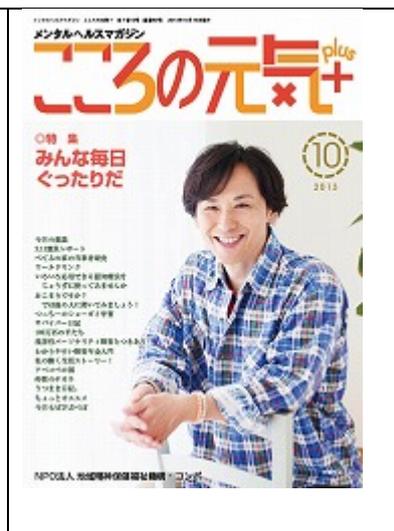
啓発誌「こころの元気+」7月号



啓発誌「こころの元気+」8月号



啓発誌「こころの元気+」9月号



啓発誌「こころの元気+」10月号



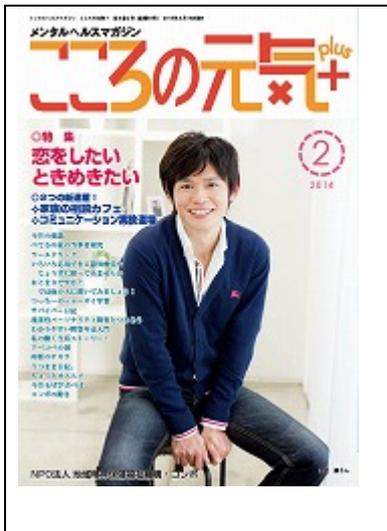
啓発誌「ココロの元気+」11月号



啓発誌「ココロの元気+」12月号



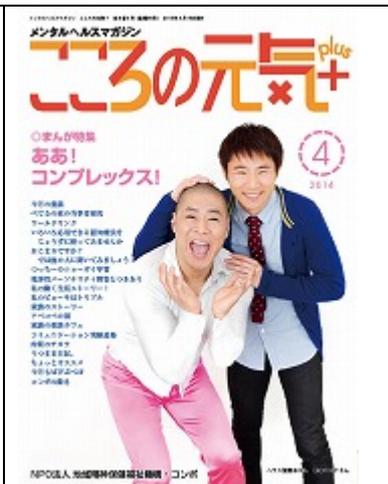
啓発誌「ココロの元気+」1月号



啓発誌「ココロの元気+」2月号



啓発誌「ココロの元気+」3月号



啓発誌「ココロの元気+」4月号

科学的に根拠のある情報・知識の提供と、経験者の知恵を伝えるという姿勢が評価され、これまで多くのメディアで紹介されてきた。

- ・平成26年1月21日中京テレビの情報番組「キャッチ！」で啓発冊子や精神疾患の当事者表紙モデルのことが取り上げられた。
- ・3月24日には月刊競輪WEBのRINGRINGプロジェクト競輪補助事業紹介コーナーに当団体および補助事業のことが取り上げられた。

また、日本医学ジャーナリスト協会賞特別賞を受賞（平成24年10月）したことは本誌の存在が社会的にも高く評価されている証左であると受け止めている。

